国立天文台見学会 報告

【開催日時】2019 年 10 月 5 日　14:00～17:00
【場所】国立天文台三鷹キャンパス
【参加者】学生 4 名、教授 1 名（内応用物理会員 4 名）
【目的】

未知な宇宙の解明には宇宙を観察する技術が必要であるが、学生は天文学を学ぶ環境にいない限りどのように宇宙を観察しているかを知る機会が少ない。望遠鏡は光学や電磁気学などを基として宇宙を観察している。物理学を学ぶ学生が天文学を身近に感じることが未知な宇宙の開拓には必要である。そのため今回は、今後の天文学の発展に寄与するだろう学生らが天文学の歴史から最先端技術を学ぶことを目的とした。

【内容・結果】

過去に使われていた屈折望遠鏡と 4 次元宇宙ドームシアターの見学を行った。屈折望遠鏡の見学中は職員の話を真剣に聞きながらも、学生が疑問に思ったことを積極的に質問して職員と活発に議論している様子が見て取れた。望遠鏡の観察原理などは光学や電波を基にしているため、これらの知識がある物理学生は、普段学ぶことが少ない宇宙の観察技術の話を興味深く聞いていた。4 次元宇宙ドームシアターの見学では、天文学の最先端技術を視覚的に学ぶことができた。また、見学を通じて異なる大学・研究室間で天文学について議論を行っていた。天文学の知見を得ることができ、大学・研究室の垣根を超えた学生のネットワークを作ることができた。

65cm 屈折望遠鏡
(国の有形登録文化財)

職員による解説の様子

集合写真（撮影者 1 名除く）